

寛永諸家譜

清和源氏癸七冊之内
支流

62

内閣文庫		
番號	和	20199
冊數	186(62)
函號	特 76	1



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





山口

中村

崔訖

越宿

齊田

辻

小倉

沢

多岐

寛永諸家系圖傳

清和源氏

癸七

交流

山口

集

勳名傳

生國丹波

直友

勳名傳

駿河守

生國丹波

淺草文庫

天正十三年正月

東照大権現の御小懸として奉列演松尾信俊

同十八年小田原陣の時

大権現の御とがり廻りて駿列興國寺

よおわく菅原和栂の書とつとむ

文長四年七月鴻津又ハ島家久が家

老伊集院源次郎こつとれ家久

惣心いくとのまが辰城より時直友

大権現の御をうけたまはりて薩列

おとしき其事と為ゆて帰海

まおとしきと言と一とく廻らたび

薩列一トリス翌年に到り和勝を

そつれ源次郎が城と清取て家久

小さづけて御京す

白刃年上秋京懐野んとさしるまを

むかしは書友

大権現の東征よまろしきありてそれ

しりふらふ小おとしき関原の御陣

をつとむじ石田三成殿のの後

大権現大津小御座の時直な係に

依く八瀬小原鞆馬におもしむ徳康

長庫頭義弘が家人新入良房本田

物丞父子三人と生おりて裁ずるの

のら良房一人とありあうれく物丞

父子成蔭摩ふつうとありのそ又良

家久小 約命のし孫とつげく隆系

せしじ宛ども家久あうくしと流

せず是よ依くあうたび良房とつに
て 命と家久よつとく家久とたづ
えくし流し伏見よあわく

大権現とあうをかけたたび鳴津蹄股
贈答の書簡並な 仰ししりて其

事にあつた

日六年丹波の國さうし三十回踏む

なよあつけた

日九年後五位下に叙す

日十九年六月廿一日 仰小依之北前
長勝之御之耶蘇禁制の事と御
治せんごせし打良大坂陣おる小依
ごいうぎ長勝より海く大坂小お色
ひく
元和元年大坂再亂の時伏奉
日二年判發して惠倫ご号す
同八年九月廿七日死に七十七歳

忠望

勲名

生國山城

長十六年忠望七歳より京都小
えはゆめく

大権現の湯一奉る

日十九年十歳の時伏見小おぬく

台徳院殿と浴一奉る

元和二年十三歳の時伏見小く

將軍家小湯さう一いちなるか

皇治こうち

おま守おまもり 生國なまくに同前

寛永かんえい四年七月十六日皇治こうち十二年

しんく

將軍家とある一なるか

同年九月廿八日

台徳院殿とある一なるか

同又年九月

將軍家の位ゐに依より食禄しょくろくとたまひり

以小姓こしやう組ぐみの御妻おんなとつゝ

同七年御小姓おしやうと成なりり 御前ごぜん小迫こしほ

侍しと

同十一年正月十三日食禄しょくろくの如増ごとくぞうと

たまひり

同十二年十二月晦日米地こめ七なな百ひゃくと銀ぎんと

同日このひ後のち五位下ごゐご小叙せうしよせり

同十五年四月廿四日御書院ごしやういん敷ふを

水

そのしんをいこうが録
家紋瞿麦扇合

过ワ

● 久正ひさただ

与之在清ヨシの村

生國なまくに根列

法名ほふな願正

久吉ひさきち

忠告ちゅうこ清

生國なまくに同どうあ

木村きむら弥市やいち在清にの村むら小属せうじゆく也

天正十八年奥列山陣の時

大権現へ免しあふ所

慶長五年

台徳院殿小比久守了真田山陣少く鐘と

あふ此の時小比久守と下ふ所

同十九年死去 四十七歳

某

名物

慶長十一年

台徳院殿一比久守り

同十八年病死 年二十五

久昌

忠告湯尉 生國氏列

台徳院殿

將軍家一比久守り

寛永十四年死去 四十二歳

久之ひさし

右馬助

生國武列なまくにぶり

台徳院殿たいとくゐん

伯父若助造ちちわかつたけ 跡下あとくだ

寛永二年かんえい

將軍家しんぐんけ（此之たくまつる）

久次

右郎助

生國武列

將軍家しんぐんけ（此之まつる）

知行七百五十石りきちやう 余と銘也

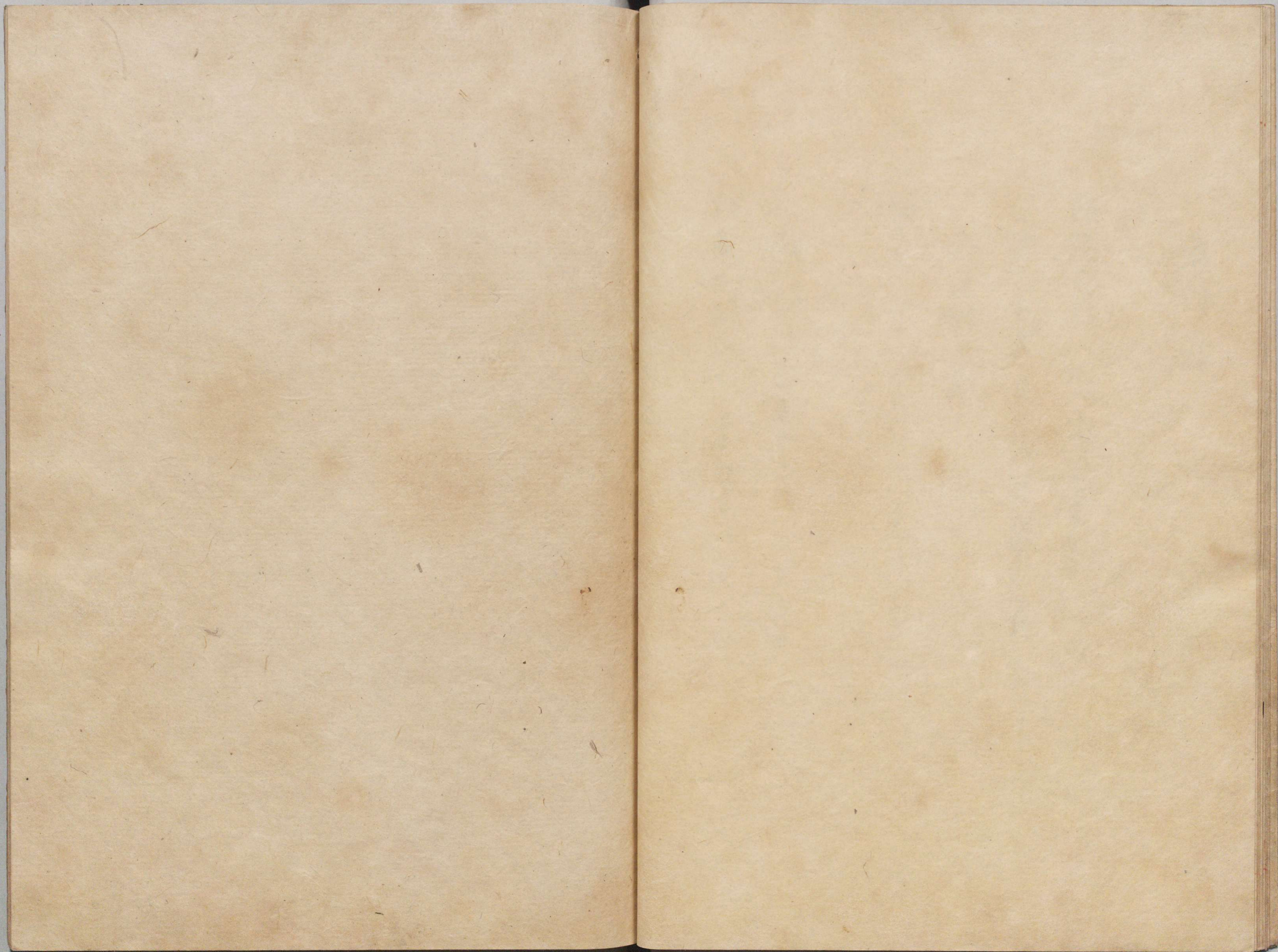
久野ひさの

八右衛門

寛永九年八月二十二日

將軍家しんぐんけ（此之まつる）

家紋いのし 頼とよ



中村 なかむら

某 なにか

宗林 そうりん

生國撰列多回 せいこくせんれつたかい

長次 ながつぐ

四郎右衛門 しろうゑもん

生國同前 せいこくどうぜん

慶長八年

台徳院殿（此）之（事）あり

元和九年 約命^{きんめい}（此）よりて駿河^{まゐら}乃^ご此

書^{かん}と^んお^ん此^んより其^た後^{ちがきや}忠^ち長^{ちがきや}（此）より

寛永七年^{けんえい}後^{ちがきや}列^{れつ}（此）より死^し（此）より五十七^{いそ}歳

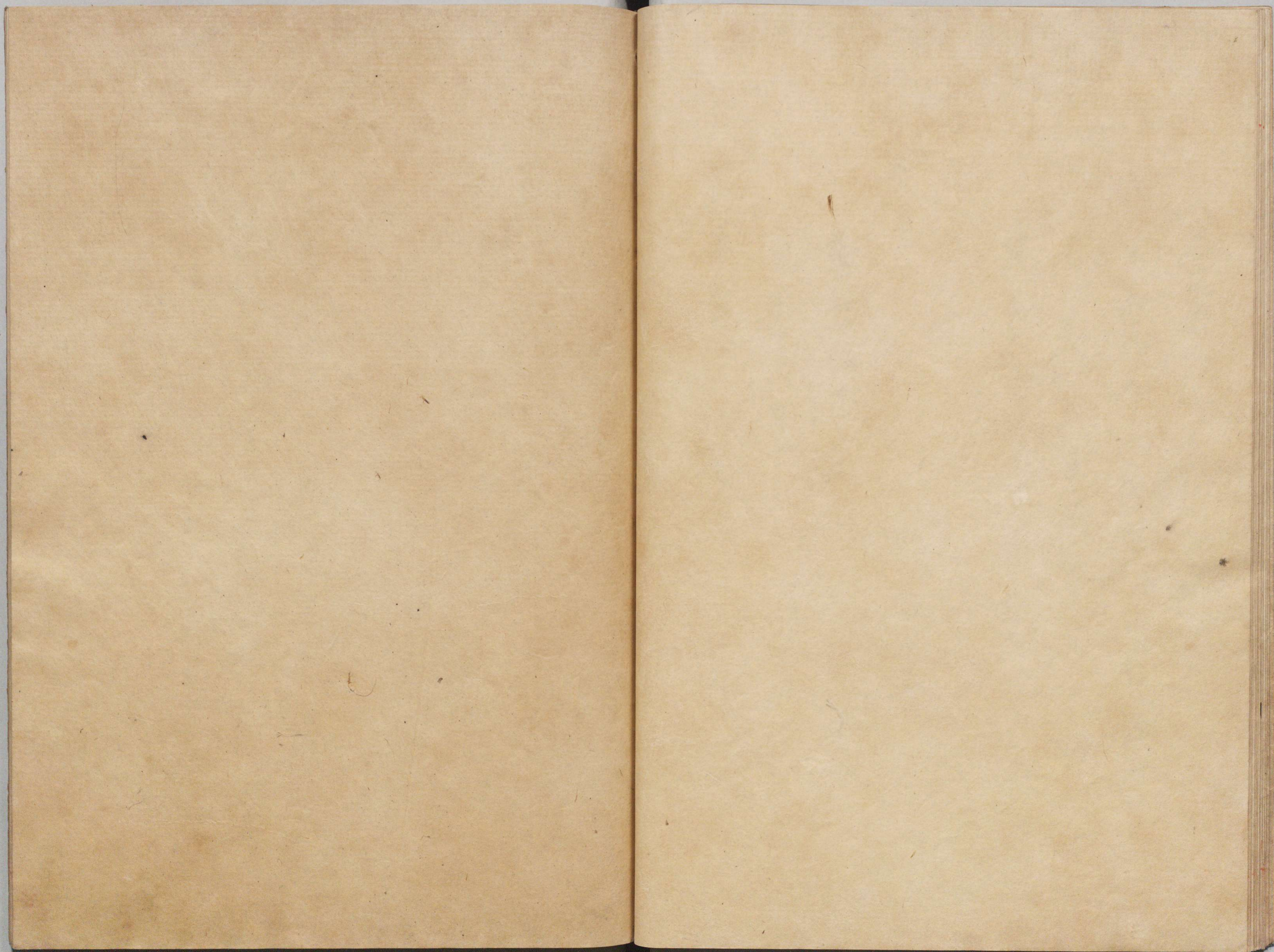
長清^{ながきよ}

右十郎 生國^{なまくに}武^ぶ列^{れつ}

寛永十一年（此）より

將軍家（此）より

家紋^{いのし} 輪^{りん}遠^{えん}



吉次

孫右衛門 生國同前

慶長五年關原陣乃時水野

對馬守小屬

大権現乃侍奉

同十九年大坂御陣養と為水野

後守に屬しと發命と羽立年

大坂没落乃後

大権現乃侍奉し御入洛乃時在京

乃中四十二之業少く病死

吉正

孫右衛門 生國武列

慶長十九年

大権現とあり守る大坂御陣乃時

吉次ととも小志ししゆ時江列

栢原にあわく

大権現とありて奉に列

元和二年

台徳院殿小比之

寛永元年十二月式列小比之病死

正信

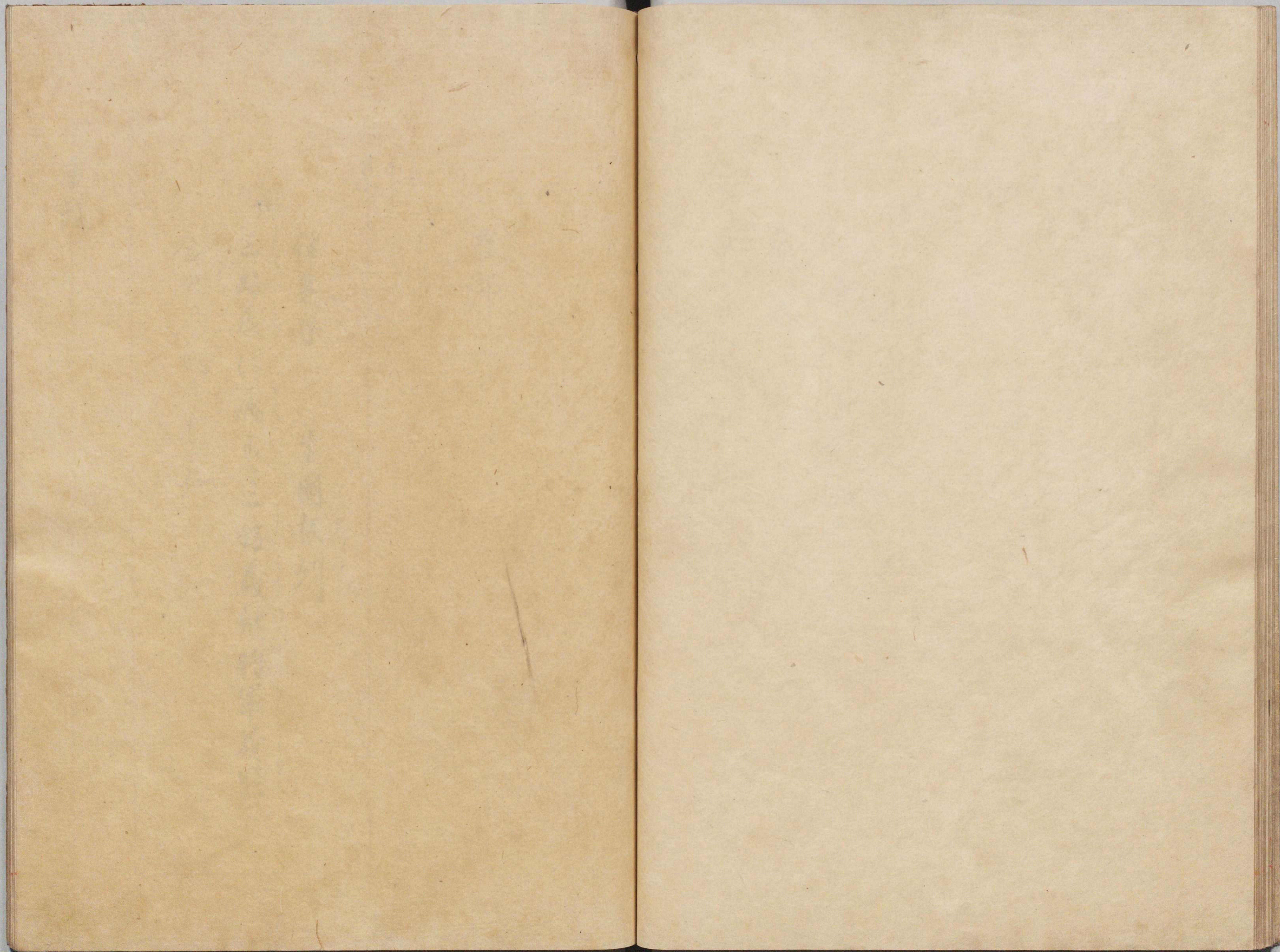
孫物

生國日前

寛永五年

將軍家一此之奉了銘比六百石奉銘

家紋 丸の内小梅輪



崔部

● 某

伴夏守

生國撰列

三好氏に属して三好義継將軍義昭の
合戦乃時うら死

重政

ありげのこし
淡路守 生國同前

三好山城守に此より

天正十一年豊臣秀次乃ちこのまに

一と是小にふ尾列乃日におわく

二子石乃地と飲む

同十九年十月廿八日没五位下に叙む

文禄四年七月秀次高野山より

自害乃時重政女情とくけなすて

死に去るる時よ三十七歳

重良

新六 生國尾張

重政卒去乃時外祖父水野水後守總

正し養育せらる細正ハ

東照大権現に此より者らる

慶長五年因原沙陣乃時總正伏見

乃城少く討死

日七年重良十二歳少く死す

日十年江列乃日くさきに鎮地八百ちりふと

たすり

大坂あわびを度乃御陣ごじんに供奉くふふ

大権現こゝろ豊洲とよすの後

台徳院たいとく殿でん小比久こひくをまりてく以書院きよん者ものと勅つとじ

元和八年

台徳院たいとく殿でん乃命のみことにまり

將軍家しやうぐんにまりてまり

重矩ちかひ

指三郎さし 生國なま武苑ぶゑん

寛永七年かんゑい 六歳むい少すくて

將軍家しやうぐんと係けいしたくちらふ家

日十九年じゅう六月むね辛しん日にち十八歳はち少すくてし書院しよゑん
番ばん也なり也なり

そのしん
家紋丸の内よ
劔菱 けんびし

澤さわ

● 真正まこと

兵助べいすけ 生國なまくに江列えりつ
織田おだ信長のぶなが小属せうじゆく

法名ほふな道慶みちけい

真像まがた

兵助

生國なまくに同前どうぜん

信長小此より
文祿元年病死ひび 五十四歳
法名宗惠しんごん

真吉まきち

武太湯たけ 生國なまくに 同どう
秀吉ひでよし 小秀頼こひでより 小此より

真次まじ

小太湯こたけ 生國なまくに 城列じやうりつ

秀頼ひでより 小此より 其後
大権現おほごんげん と 津つ 一いち 寺てら 又
台徳院たいとくゐん 殿でん
將軍家しやうぐんけ 小此より

真久まひさ

三右衛門さんえもん 生國なまくに 江列えりつ
寛永くわんゑい 十四年
將軍家しやうぐんけ 小此より

真清 まきよ

平太清こい 生國なまくに 同おな

慶長きやうちやう三年

大権現おほいけんとい 生國なまくに 其後

台徳院殿

將軍家小此ここの久ひさ 守まもり

寛永六年かんえい 病死びやう 六十四むそしよ 歳

法名ほふな 靈たま 信のぶ

真定 まぢやう

庄しやう 生國なまくに 同おな

大権現

台徳院殿

將軍家小此ここの久ひさ 守まもり

真利 まゐ

左ひだり 生國なまくに 同おな

台徳院殿

將軍家小比久やま

真重まゝ

五兵衛ごべゑ 生國なまくに

元和四手

台徳院殿

將軍家小比久やま奉ほう

清貞きよさだ

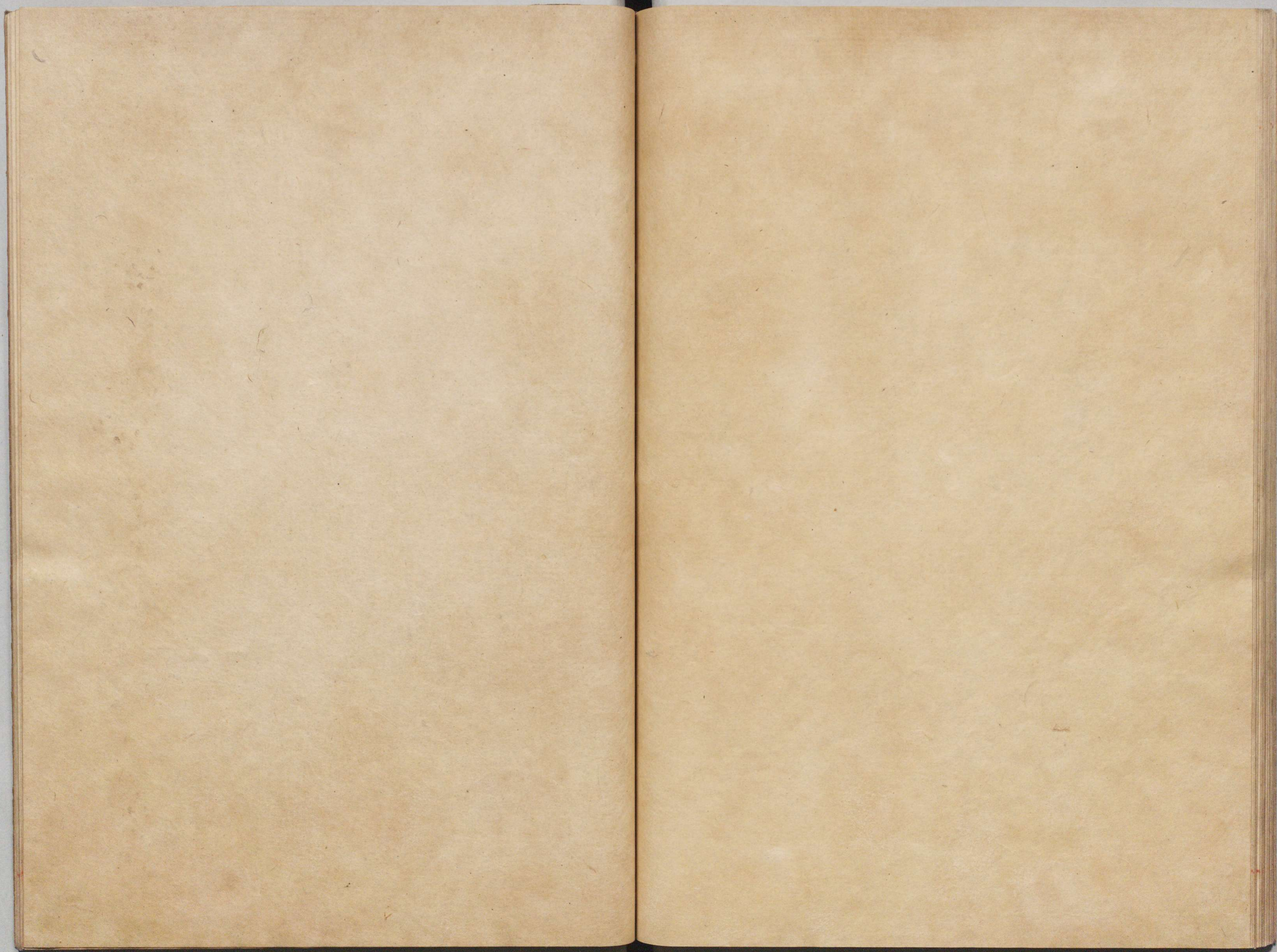
才助さいすけ 生國なまくに

元和九年

台徳院殿

將軍家小比久やま

家紋いえもん 五梅ごばい



彦六郎

生國尾列

法名津家

右政あこをほご田沼たぬま乃城じやうとなり

信長ふなが小こはは

右長

右馬允

生國日外

尾列おしり田沼たぬま浪人らうじんとなり勢列せいりへひて

龍川たきつか右進みぎしん一益いちえき小属せうじゆ一いち家老けらう七人しちにん乃

小相せうさうくくつつり

天正十二年長久手たてひら陣じん乃なり和龍川わりゅうがわ

没落ぼつらく以後いご秀吉ひでよし乃なり龍川りゅうがわ家老けらう七人しちにん

乃なり秀吉ひでよし乃なり秀吉ひでよし乃なり秀吉ひでよし乃なり秀吉ひでよし

属じゆく一いち其後そのご

東照大権現とうしょうだいこんげん乃なり其後そのご攝津國河内せつじゆんこくわん

山城やましろ三ヶ國みやこ乃なり諸島しよしま乃なり法度はふた中ちゆう乃なり此こゝ

乃なり此こゝ乃なり此こゝ乃なり此こゝ

台徳院殿御代たいとくゐんゑんごよ乃なり右みぎ乃なり御役ごやく乃なり河列かへつ

知所ちしよ乃なり小属せうじゆ

台徳院殿へ
出さる

日九年
しり

將軍家へ
しり

家紋三雁と羽蝶

多志 たき

● 資光 すけみつ

生國近江 いけくにえ
宗心 むねこころ

江列甲賀の領主 えりょうこうかのりやうしゆ
法名 ほふな

資政 すけまさ

豊前 ぶんぜん

生國同前 いけくにどうぜん

資真

四方之朝

生國同前

資次

十勝の

生國同前

多武乃領主曰代資次小つひと没落し
浪人となるを駭列花沢小浩と今川氏真小
此之花沢乃城落居乃後

天正十二年

大権現

一考し出さる

文祿元年死

資元

六苑

生國三列

天正十四年小

台徳院殿一考し出さる

寛永十三年死去

資勝のり

十右衛門

生國のり後列

慶長八年

台徳院殿一巻一冊

將軍家一紙之書

家紋のり二引兩花木瓜

● 元定

二位回若丸湯の村

生園和泉

利髪いさげ〜宗甫むねとみと号す

若年わかしゅ〜秀吉ひでよし小比こひ久ひさ五百石と領す

齊田

初ハ二位回むねとみと稱なづを元次もとつぐ小こ〜

齊田さいだとあつたじ

文禄二年十二月二日病死

元次

齊田九左衛門尉 生國情列

戸田民部少輔小属一采地八百石と

飲むそのら浪人となり舊好あり

く河相市正忠盛小属と

慶長十七年五月二日病死 樂翁浄安

こ号す

元勝

角勝の尉 生國山城

越前宰相忠直卿小仕一采地と領す

寛永元年越後少将光長越前とあり

よあ越後小つらそのき元勝浪人と

あり

寛永十二年十二月九日土井遠江守

利隆太田内中守資宗とあり

將軍家と祿一
と
右筆乃後と所

元政

指右清の尉

生國榎列

元俊

森三清尉

生國山城

家紋

立波澤深

